



えと文

辻本敬三

富士

富士は日本の誇りである。いつ、どこから眺めても毅然として美しい。世界のどの国の山よりも立派である。富士ほど均整美の山はない。美は均合いであると洋画家林武は言っている。富士は正にその世界代表選手である。古来多くの画家が富士と取り組んで多くの傑作を成している。それほど富士は吾々日本人の心を奪う魅力の名山である。

富士は魅力の山であると同時に不可思議な山である。高い処から眺めるほど高く聳える山である。伊豆天城の高原から見た富士は中天に懸っていた。ジェット機が駿河湾を越える時に見える富士は天空の中にある。地上から聳えているものとは思われない。眺める位置が高くなればなるほど富士は天へ昇って行く山である。

(校友・福助商事社長・二科会々員)



文 と え

子悦瀬笹

京都博物館

日ざしのきびしい初夏の或る午後、久し振りに京都博物館を訪れた。

改装新築になったため、最近とみに異国の展覧会が開かれる。展覧会もさることながら新しい博物館を見るのも楽しみの一つであった。道々、以前の博物館を想い出しながら一つの像をつくっていたが、博物館を目の前にした時には、想像以上に立派であったのには驚かされた。新旧織りませた建物と庭との調和は、まことに心憎いほどで、こんな恰好のやすらぎの地が、手近にあったかと心温まる思いがした。建物内部も外観同様しつとり落着いて観賞出来るのは有難い。近頃のように喧噪、騒音の渦の中に立たされている時、全く貴重な存在と思う。岡崎の美術館周辺もかつてはそうであったが、現在ではブームに乗って少しざわついてしまった。せめて博物館だけは何時までも現在の落着きを続けてほしいものである。

周囲の樹々の緑が殊に美しく映えていたのが目に残る。

(昭20女専卒・洋画家)